

京都教育大学附属桃山中学校

(様式 4-2 : 令和 5 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる教員支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称：経済・環境の観点から北陸新幹線の京都延伸の是非を問う					
2. テーマ：実地調査などから京都の交通行政を考える					
3. 実施教科：社会科					
4. 関連単元：暮らしを支える地方自治					
5. 実施単元数：1 単元					
6. 学年	中学 3 年生	7. クラス数	4 クラス	8. 生徒数	133 人
9. 実施内容					
○単元名 C- (2) (イ) 暮らしを支える地方自					
○指導項目 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。					
(ア) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。					
○単元の学習内容					
中学校社会科公民的分野「暮らしを支える地方自治」の単元において授業を設定する。昭和 48 年に東京都—大阪府間の 700 km を結ぶ北陸新幹線の整備計画が決定され、その後、高崎—長野間が平成 9 年に、中野—金沢間が平成 27 年に開業した。金沢以西の整備については、敦賀を通過して大阪までつなぐ予定で、金沢—敦賀間は令和 6 年春頃完成予定である。敦賀以西は、「小浜京都ルート」により整備が進められることになっているが、環境影響評価 (アセスメント) の遅れや建設反対運動などのいわゆる「京都問題」の解決をみていないため、延伸計画は停滞している状態である。そこで、本単元では「京都問題」に焦点をあて、交通の成り立ちや環境に与える影響を調査し、観光や物流といった経済活動にどのような影響を与えるのか、京都がどう変わっていくのかを探究する。特に京都は景観を守ることに力を入れている。延伸計画の白紙撤回を求める要望書を提出した地域もある。経済活動と景観保持といった容易に解決できない問題を、様々な立場から考え合意形成を図ろうとすることで、公民的資質を養い、社会参画への意識を高めることにつながると考えている。					
○単元で目指す生徒像					
地方自治を実現するための政治参加の重要性を、模擬議会を通して考え、公民的資質を養う。					

○単元の知識について

教科の知識		
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域に関する環境改善などの身近なまちづくりの調査活動を通して、社会参画と政治が結びついていることを理解する。 ・環境を守る取り組みを進めるために、市民が環境について学び、それぞれの立場で主体的に社会参画していく必要があることを知る。 		
教科横断の知識 (i)	エピステミックな知識 (e)	手続的知識 (p)
<ul style="list-style-type: none"> ・データの活用 (数学科) 延伸に係る費用や利用者の予測などの資料を分析する。 ・地震 (理科) 京都周辺の活断層がどのようなになっているのかを知ること で、延伸計画の妥当性を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政計画の意思決定までの流れを理解する。 ・行政の決定までに住民の意見を伝える方法を把握する。 ・京都市の交通行政の在り方から未来の京都市の交通の状況を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県や石川県、長野県が北陸新幹線延伸にどれだけ費用負担しているのか、地域住民の理解をどのように得たのかを調べ学習で把握する。

○モビリティ・マネジメントとの関連

本校は、近畿日本鉄道及び京阪電気鉄道の「丹波橋駅」、JR奈良線「桃山駅」に隣接しており、生徒たちの多くは公共交通機関を用いて通学している。また、最寄りの駅までバスを活用している者もいる。生徒たちにとって公共交通は身近なものであり、なくてはならないものである。その反面、ダイヤ改正等で不便を感じることはあっても、利用者が多い路線のため廃線になったり減便になったりすることを考えていない。本単元では、地方公共団体がいかに苦心して公共交通の維持に努めているのか、なぜ廃線になることがあるのかを考える機会とした。その一方で、北陸新幹線という地域住民の意見を無視するような計画の存在を知った時、未来の主権者としてどのような判断をするのかを考えさせた。

多面的・多角的に北陸新幹線延伸問題の課題を捉え、一時的な解決策を模索するのではなく、将来的な交通行政の在り方について展望をもって探究し続ける生徒を育成することを目指した。また、地域社会の現状や課題に関心を持ち、主体的に政治参加しようとする意識を養うことができる。北陸新幹線延伸問題に関わる地域の課題（観光地の景観保全や地下水の水質汚濁、地盤沈下等）から地球規模の課題（SDGsに関わる問題、具体的には水の確保や環境問題）の解決を目指し、未来を生きる人として持続可能な世界をつくっていく意識を身につけることができる。

10. 学習のながれ：

○単元計画

時数	学習内容・活動内容	学習のプロセス
1	「地方自治のしくみ」 地方自治はなぜ必要かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治が地域の実態に応じた取り組みを行っていることに気づく。 地方公共団体における首長と議会の役割を理解する。
2	「地方自治と私たち」 地方自治を実現するために私たちはどうすればいいか考える	<ul style="list-style-type: none"> 地方財政の課題について、自主財源と地方財源の割合に注目して理解する。 地域住民が地方自治に参加するための権利とそのため定められている制度を理解する。
3	「北陸新幹線のルートを考えよう」 北陸新幹線はどのルートをとるべきだろうか	<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線のルートを費用と効果の面から考察する。 自分の考えた北陸新幹線のルートから、現行の小浜－京都ルートの課題を考える。
4	「北陸新幹線延伸問題の問題点を考えよう」 北陸新幹線の課題について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> 小浜－京都ルートのメリット・デメリットを考える。 北陸新幹線の京都延伸に反対する人の理論を整理する。
5	「北陸新幹線の予算を考えよう」 北陸新幹線京都延伸にかかる予算を承認するか考える	<ul style="list-style-type: none"> 金沢－長野間の建設費用から金沢－大阪延伸にかかる費用を予測し、京都府の負担金額を予想する。 北陸新幹線の利用状況や、並走するサンダーバードの利用者の推移から、北陸新幹線延伸後の乗客数を予想する。 地域住民の考えを理解し、北陸新幹線延伸の是非について賛成・反対の立場から理論を形成する。
6	「模擬議会で北陸新幹線延伸問題を審議しよう」 模擬議会から、地方自治への関わり方を考える	<ul style="list-style-type: none"> 模擬議会で答弁する際にどの立場を考慮しているのかを明確にし、北陸新幹線延伸に賛成か反対かを根拠をもって発信する。 模擬議会を通して、地方自治に自分がどう関わっていくかを考える。 模擬議会の結果を受け、京都市の交通行政の未来について考える。

○成果と課題

学習を終えての生徒の感想は以下の通りである。

とにかく、選挙に行こうと思った。それと、今回の授業で調べるまで北陸新幹線については何も知らなかったの、積極的に情報収集をしたい。

作ったとしても結局は北陸にしか利益がない。3000億円を宿泊税増税によって賄うと京都府は言っているけれど、宿泊税が高くなることで観光客数が減れば元も子もない。それだけではなく、環境問題、自然災害、産業に置いて悪い方向に進む可能性が高い。鳴滝や西京極などの地域住民も反対している。多くのリスクを負ってまで延伸する必要はない。

僕は、北陸新幹線を開通させると一定の利益が見込まれることはわかったが、それによって京都府の予算から社会保障関係費を削るということになる、市民からの反感もかやすい

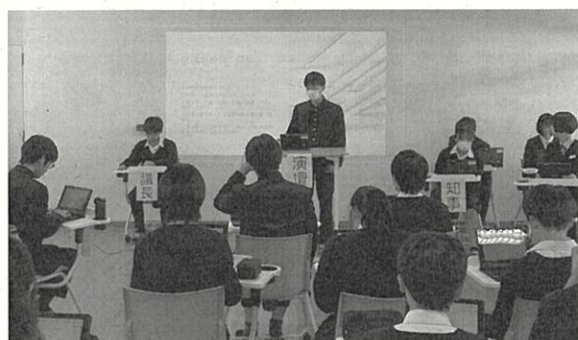
し、建設によるリスクもたくさんあるので、そのようなリスクを負ってまで建設する意義はないと思う。また、京都府の住民に聞き取りをしたときに建設に対して反対という意見が多かったので、民主主義である以上、しっかりと住民の意見を聞いた上で政策を実行していくことが大切だと思う

ただでさえ今京都は財政的に結構厳しい赤字くらいのレベルなのに、新幹線に 3000 億円も払ってる余裕ないだろ。もっとお金出すべきところあるだろ。SDGs とかみんなで言ってるのにそれを自分だけ破っていくような人に到底府民はついていけない。美山に線路を通すつもりならなお反対。美山も京都の貴重な観光地の一つ。そこに線路を通してまですべきなのか？今のところでは問題が多すぎてメリットよりデメリットのほうが大きい。

京都駅へのアクセスが増える事は京都にとってとても大きなメリットであるとともに、その他の地域にも良い影響を及ぼすことができる。災害時にも活躍させられるこの新幹線は京都だけでなく、日本全体に大きなメリットを与えることができる。更に、日本が良くなる＝京都もよくなる、京都が日本を高めることで日本も京都を高めてくれる。とても将来性のあるこの新幹線には、京都も積極的になるべきだと思う。

今回の議論で、自分が知らないことがたくさん出てきて、もっと自分で情報を集めて正しい判断をできるようにしないといけないと思った。日本は政治の参加率が低いと聞いたことがあるので、一人一人が政治に興味を持ち、地方自治などにかかわっていくべきだと考えた。

模擬議会による北陸新幹線延伸問題についての生徒の賛否は凡そ 2:1 で反対意見が多かった。生徒の感想はその結果を踏まえたものとなっている。反対派の意見として、交通行政を考えた際に、環境問題や自然災害などの環境面のリスクを考慮したり地域住民の意見を聴いたりすべきであるという意見が目立った。特に北陸新幹線の延伸計画には、環境アセスメントや建設経費の妥当性の



問題を解消することが困難であることから、デメリットが利便性等のメリットを凌駕するとの結論であった。現在の京都府議会は自民党等賛成派が過半数を占めているため、実際の議論では建設賛成となってしまうことから、今後の選挙や住民参加の機会に生徒たちが自ら考え、自ら意見を述べ伝える素地を作ることができたのではないかと考える。

一方で、北陸新幹線に関わる交通行政に目を向けることには成功したものの、北陸新幹線の予算確保によって失われるかもしれない交通、とりわけ過疎地域のバス路線など地方自治が担うべき交通行政には目が向きにくかった。より過疎地域など地方の中でも目の届きにくいところの交通について、地方公共団体や地域住民がどのように考え、どう在るべきかを判断するような授業を展開し、より交通行政を生徒が自分事として捉えることができるようにしたい。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。